

INFORMATION

「みやぎの散歩道」 マコ来院



去る四月二十六日(土)仙台駅東口の散策ガイドをしている「みやぎの散歩道」の案内で五十名ほどの方々が見学にいらっしやいました。住職の法話に合わせ「世界に一つだけの花」を斉唱したりと朗らかな御一行でした。



境内の花々



同朋会コーナー

五月同朋会より

住職法話 『仏(ぶつ)について(二尊教)』

真宗では阿弥陀如来と釈迦如来の二仏を尊びますが、それぞれ阿弥陀如来を救主、釈迦如来を教主きょうしゅといひます。釈迦如来はお釈迦様のこと。仏教にはじめて出遇であわれた人間の代表がお釈迦様です。そして、そのお釈迦様が、私たちを救すくつてくださる仏として手を合わせたのが阿弥陀如来なのです。

ですから真宗では「南無釈迦牟尼仏」ではなく「南無阿弥陀仏」と唱なむあみだぶつえます。お釈迦様と一緒に阿弥陀様に手を合わせていく心持こころもちなのです。

前住職法話一部抜粋 『歎異抄第十七章』より

第十七章には「辺地の往生をとぐる人」という言葉がでできます。これは念仏しながらも仏の智慧ちえを疑って、自力で悟りを開くことができるのではないかと思つている人のことです。そういう人は如来の悟りの世界きわの際まではいくけれどその悟りの世界の中には入れません。しかし、ひとたび自分が自我いっばいの私だったと気づき、仏の智慧を疑って自力で何とかかなと思つていたので、ということに気づいたとき、頭が自然に下がつて阿弥陀仏にお任せすることができのです。

次回 同朋会「案内

六月九日(土)午後一時〜

茶菓代 500円

持ち物 (あれば) 勤行本

数珠じゆず

どなたでも参加できます。

とくほう

『徳泉寺報』後記

「五月病」。四月に新しい環境に変わった人たちが少し慣れて疲れが出てくる症状です。しかし変化のない生活をしている私でも五月は何となく体調がおかしくなります。気づきにくいことですが社会的な環境だけでなく自然環境も変化していてそれが私たちの身体に大きな影響を与えるのですね。